





# 航空機戦闘報告書

(攻撃を行わなかった場合は、このシートを省略すること)

3

報告書番号 63-45

## XI. 敵艦船または地上目標への攻撃(本報告書II項に記載の味方機によるもののみ)

(a) 目標および場所 八街飛行場(目標番号2804) (b) 目標上空時刻 5:45~6:30(日本時間)

(c) 目標上空の雲 高度500フィート(約152m)に雲量10分の9  
(戦艦については、攻撃区域内の全隻を対象とせよ)  
(雲底の高度(フィート単位)、雲の種類および雲量(10分率))

(d) 目標の視認性 霧 (e) 視程 10~15マイル(約16~24km)  
(快晴、霧、所々に雲、その他) (マイル)

(f) 攻撃戦術:種類 急降下爆撃 使用照準器 MK8  
(水平飛行、滑空、急降下) (種類)

1回あたりの投下数 1発 間隔 \_\_\_\_\_ 投下高度 4,000~6,000フィート(約1,219~1,829m)  
(NUMBER) (フィート) (フィート)

(g) 地上にて命中させた敵機:破壊 なし 概ね破壊 なし 損害 なし

(h) 照準点	(i) 寸法またはトン数	(j)機数 (k)部隊名	(l) 各照準点ごとの爆弾・弾薬消費量	(m) 照準点への命中数	(n) 損害(なし、軽微、重大、撃破または撃沈)
八街飛行場 格納庫		11機 第16戦闘飛行隊	260ポンド爆弾11発、ロケット弾20発	区域内に着弾	観測できず
八街飛行場 掩体壕群		4機 第16戦闘飛行隊	260ポンド爆弾4発、ロケット弾2発	区域内に着弾	〃
成東飛行場 機関車		1機 第16戦闘飛行隊	260ポンド爆弾1発、ロケット弾1発	至近距離で着弾	蒸気を噴出して停止した
成東飛行場 建物(詳細不明)		1機 第16戦闘飛行隊	ロケット弾1発	命中	炎上

(O) 戦果: (艦船目標への全命中弾、および特に重要な地上目標については、命中弾の種類と箇所を示す図を描画すること。全ての目標について、命中箇所とその効果を記述し、上記の番号で識別すること。必要であれば、別紙を使用せよ)

目標地域は、高度500~2,000フィート(約152~610m)と6,000~7,000フィート(約1,829~2,134m)の二層にわたる雲により10分の9が覆われていた。八街飛行場上空に唯一の雲の切れ間を確認。同飛行場と機関車に対し機銃掃射を実行。その他、ロケット弾5発を不具合により投棄。

(p) 写真は撮影されたか? いいえ 損害を写した写真がある場合は、ホチキスで添付すること。

4

報告書番号 63-45

**XII. 戦術および作戦データ** (物語形式の報告と所見。左のチェックリストにある該当項目に沿って、行動の全てを記述し、自由に意見を述べる。必要であれば、別紙を使用せよ。)

**敵との交戦**

- 味方機
- 配置
- 高度
- 速度
- 接近戦術
- 遮蔽物の利用、欺瞞
- 攻撃角度とその有効性
- 射撃開始距離
- 防御戦術とその有効性
- 敵機
- 発見方法
- 距離
- 配置
- 高度
- 速度
- 接近戦術
- 遮蔽物の利用、欺瞞
- 攻撃角度
- 射撃開始距離、防御戦術

割り当てられた目標である東京湾地域の飛行場へ進撃するも、目標地域が厚い雲に覆われ、計画された攻撃は不可能だった。

探索により八街飛行場上空において唯一の雲の切れ間を発見。同飛行場に対し爆弾及びロケット弾攻撃を実行。格納庫および掩体壕分散区域を照準点としたが、視界不良と、雲中への引き起こしだったため、戦果は観測不能。ただし、パイロット1名より、機体の引き起こし中、格納庫区域での火災を目撃したとの報告あり。

また、2機が成東飛行場付近で機関車1両を攻撃。同機関車は貨車を切り離し、橋下へ退避したが、爆弾1発とロケット弾1発の至近弾、その後の機銃掃射により、蒸気を噴出して行動不能。別のパイロット1名は成東飛行場内の大型建造物に対しロケット弾1発を発射し炎上させた。

一方、宮川(横芝)飛行場(目標番号2780)に対し、パイロット2名が低空機銃掃射を試みたが、敵の激しく正確な機関砲による対空砲火により、攻撃を断念。

**所見および提言事項**

- 自軍の弱点
- 敵の弱点
- 攻撃戦術
- 自軍の攻撃戦術
- 敵の防御戦術
- 自軍の防御戦術
- 敵の防御砲火
- 自軍の護衛戦術
- 戦闘機管制
- レーダーの活用
- 夜間戦闘
- 敵味方識別、航空機

**攻撃**

- 自軍の戦術
- 目標の発見方法
- 目標への接近  
(高度、速度)
- 最終進入
- 急降下
- 引き起こし
- 急降下角度
- 機銃掃射
- 離脱
- 防御戦術
- 電波妨害の活用
- 敵軍の防御
- 回避戦術、艦船の偽装
- 探照灯
- 夜間戦闘機の戦術
- 電波妨害の活用

**所見および提言**

- 爆撃戦術
- 雷撃戦術
- 爆弾・魚雷の有効性
- 目標の選定
- 信管設定
- 機銃掃射戦術
- 防御戦術
- レーダーの活用
- 偵察
- 写真撮影
- ブリーフィング

**作戦運用**

- 航法
- 帰投誘導
- 合流
- 識別、艦船
- 通信
- 飛行運用
- 搜索および追跡
- 基地運用
- 整備

5

報告書番号 63-45

XIII. 資料データ(左のチェックリストに沿って、性能や適合性について自由に記述すること。必要であれば、別紙を使用せよ。)

- 兵装
  - 銃、照準器
  - 砲塔
  - 弾薬
  - 爆弾、魚雷
  - 爆撃照準器
  - 爆弾投下装置
- 通信
  - 無線機、レーダー
  - 帰投誘導装置
  - 視覚信号
  - コード、暗号
- 通信
  - 敵味方識別装置(IFF)
  - 信号
  - 手順
- 防御
  - 装甲箇所、およびさらなる防御が必要な射角
  - 防漏装備
- 緊急装備
  - パラシュート
  - 救命帯、救命ボート
  - 安全ベルト
  - 緊急キット
  - レーション、救急用品
- 航法装備
  - コンパス
  - 偏流測定器
  - 八分儀
  - 自動操縦装置
  - 海図
  - 飛行場灯火
- 計器
  - 飛行計器
  - エンジン計器
- 酸素システム
- 迷彩および欺瞞装置
- 構造
  - 機体フレーム
  - 操縦翼面
  - 操縦系統
  - ダイブフラップ
  - 着陸装置
  - 暖房システム
  - 飛行特性(様々な搭載量において)
  - 動力装置(パワープラント)
  - エンジン
  - エンジン補機類
  - プロペラ
  - 潤滑システム
  - 始動機
  - 排気炎減衰器
- 油圧システム
- 電気系統
  - 補助電源装置
  - 灯火
- 燃料系統
- 飛行服
- 整備
  - 基地施設
  - 機体整備用機材
  - 人員用施設

特になし。

報告書作成者

O.R. ウェイツ 海軍予備役少佐  
(第16戦闘飛行隊付 航空戦闘情報士官)

P.A. スミス 海軍予備役少佐  
(第16航空群付 航空戦闘情報士官)

承認者

C.S. モフェット 海軍予備役少佐  
(第16戦闘飛行隊 司令)

レイ・デイヴィス 海軍中佐  
(第16航空群 司令)

報告書作成者:

承認者: